

普及現地情報



発信年月日：令和5年(2023年)11月1日

所属名：大津・南部農産普及課

番号：A23012

部門分類：140（飼料作物）

発信者名：永見、柴田、木村

大津市南比良で子実用とうもろこしの収穫始まる

大津市南比良で、大津堆肥利活用組合（以下「利活用組合」）が栽培していた子実用とうもろこしの収穫が始まりました。収穫したとうもろこしは飼料会社で加工されたのち、利活用組合の一員である地元養鶏農家の採卵鶏に給与される予定です。

利活用組合は、大津市北部の大規模耕種農家3戸と養鶏農家の計4戸で今年3月に結成され、堆肥を活用して子実用とうもろこしを約3.6ha栽培しています。昨年からはメンバーの一人が試作として栽培していましたが、カラスによる抜き取り被害や湿害により収穫できなかったほ場もあり、平均収量は300kg/10aとなっていました。



収穫作業

今年はカラスが集団行動する時期を避けて6月20日に播種を行いました。湿害や播種精度の悪さから一部で発芽不良があったものの、適期に効率的な防除を指導し、心配されたアワノメイガなどの虫害も少なく、平均収量は未確定ながら、昨年以上となりそうです。生産者は「一つずつ問題を解決して徐々に収量も増えてきた」と手ごたえを感じておられました。

利活用組合も加入する滋賀県子実コーン組合で生産されたとうもろこしは飼料会社で粉碎・圧ぺん等の加工をされ、地域の養鶏農家で給与され、『地元産の飼料で育てたたまご』として販売されます。



収穫されたとうもろこし